

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』

～ 志賀 直哉 ～

1883年（明治16年）～ 1971年（昭和46年）

宮城県出身。小説家。

代表作「暗夜行路」「和解」「城の崎にて」「小僧の神様」など多数。

1949年（昭和24年）文化勲章受章。

日本における私小説のスタイルを確立し「小説の神様」と称えられました。

武者小路実篤、有島武郎らと雑誌「白樺」を創刊しました。

当社史料室には1931年（昭和6年）にお客様の御用命により志賀直哉の自宅宛に味噌をお送りした記録が残っています。自宅は奈良市上高畑。

※1929年（昭和4年）に志賀直哉が設計した数奇屋造りの家を奈良市上高畑に新築しました。昭和初期、多くの文人、画家が集まり、高畑サロンと呼ばれるようになりました。その1人に「蟹工船」で知られるプロレタリア作家の小林多喜二がいました。又、長編小説「暗夜行路」もこの家で完結しました。

なお、当社と御縁のあった愛知県蒲郡市の蒲郡ホテル（現・蒲郡クラシックホテル）にも志賀直哉が滞在されています。

